



## 2011年3月11日発生 of 東日本大震災により 被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

思いもよらぬマグニチュード9.0という千年に一度といわれる大災害に、人間の想像をはるかに超えた大自然の威力を見せつけられました。被災地の皆さまのご健康と一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。全てが想定外の災害に驚くとともに、杉並区もこのままの防災体制で見直す必要はないのか？私たちにできることは何か？そんな疑問がよぎりました。

### 被災地の現場を視察

とにかく現場を見てこよう！複雑な思いを抱えて東京から近い被害地の千葉県旭市と、浦安市、そして福島県の方々が避難している味の素スタジアムへ行ってきました。

浦安市では、液状化により地盤沈下し地面は分断され、マンホールが1mも飛び出した光景、電信柱が倒れかかり、道路はゆがみ、住宅が傾き、電話ボックスも倒れそうというありさまに、息をのむばかりでした。



浦安の液状化で傾いた電話ボックスと破壊され歩道

そしてさらに目を疑い唖然としたのが、千葉県旭市の土台だ

けを残し津波に家をさらわれた地域でした。そこはすでに瓦礫がかたづけられ、まるでこれから家を建てる分譲地のようにきれいに更地になっている光景でした。近くの飯岡体育館のグラウンドには瓦礫の山が積みまれました。壁をはがし風呂桶をひっくり返した家、柱が折れ屋根が流された家、厚いコンクリートの護岸が引き裂かれている光景など、自然の力の前に立ちすくむばかりでした。



千葉県旭市の飯岡体育館前

# 横山えみの災害緊急リポート

### 命を救った1本の電話

そんな中で、ようやくつながった「津波が来る！逃げて！」という身内からの1本の電話で九死に一生を得た中高年女性の話を聞くことができました。いつもなら津波が来るといっても数十センチでたいしたことがないので、これまで逃げたことがなかったのですが、今回はその電

話のおかげで逃げることができ、命が助かったとのことでした。しかし、2メートル半の津波は自宅の1階部分を根こそぎ破壊し、すべてが濁流にのまれたのです。両隣りの家は流されていました。

また、津波が来るとの警報に、高齢者を背負って逃

げたという若者や中高年の男性の方々にも出会いました。

### 高齢者や病人を災害からどう守るのか

思わぬ災害に出会った時、高齢者や病人、障害のある方々などすべての人をどう守り、助けるのか。これが最大の防災の課題だと感じました。



軒並み家が津波で流された地域。後方には瓦礫の山。



千葉県旭市の三川河口。コンクリートの護岸が破壊されていた。

地震災害・被災窓口支援、相談窓口を開設しています

☎ (03) 3312-2111

場所：杉並区役所東棟1階 区政相談課内(阿佐ヶ谷南1-15-1)  
時間：午前8時30分～午後5時(土・日も開設しています)